

令和5年度 4月入学

大学院入学試験 (2次募集) 概要

生物資源環境学研究科

【博士後期 (博士) 課程】

石川県立大学

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

石川県立大学は、平成 21 年 4 月に、大学院生物資源環境学研究科・博士前期（修士）課程と後期（博士）課程を同時に開設しました。

本学は、生物とその生命現象、農学と農業生産について深く学び、人類が現在直面する諸課題、食料、環境、資源、生命について、問題点を実践により理解し、自ら解決する意欲を持つ学生を求めています。人と自然環境、人と生物、生物と自然環境、それぞれの間にある関わり合いを科学的に深く探求し新しい理念を打ち立て、それを地域社会へと還元し役立てる。そのような高い志をもち、清新、闊達、進取の気運に満ち溢れた若人が集うことを、本学大学院は望んでいます。

自然人間共生科学専攻

人類社会に投げかけられた様々な問題を国際的な広い視野から見つめつつ、地域に根ざした課題解決の方途を追求することに意欲的な人材を求めます。特に、地域の生物生産、地域環境の維持・保全に関する基礎的研究を積極的に推進し、県内外の試験研究機関および教育機関との共同研究や、様々な交流活動を通しての地域貢献を目指すことに、高い志を有する人材を求めます。

生物機能開発科学専攻

人類の安定した存続・持続をめざす「共生・共存の理」の理念に立って、植物、微生物の未知の有用遺伝子を探索し、遺伝子改変、遺伝子導入により、新しいバイオテクノロジーの展開を図るとともに資源の枯渇に備えた新しい生物資源の創成を行うことに意欲を有する人材を求めます。また、食品科学の機能に関する研究分野においてはバイオテクノロジーを中心に最先端の研究を展開すると同時に、自ら研究課題を考え解決する能力を身につけ、地域の産業振興に指導的役割を果たし、国際的な活躍をも目指す、高い志を有する人材を求めます。

1 募集人員

研究科	専攻	入学定員	選 抜 区 分		
			一般選抜	社 会 人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜
生物資源環境学 研究科	自然人間共生科学	4名	若 干 名	若 干 名	若 干 名
	生物機能開発科学	4名	若 干 名	若 干 名	若 干 名
合 計		8名	—	—	—

※出願にあたっては、希望する研究領域の担当教員と事前に研究内容等について相談してください。担当教員の連絡先が不明な方は教務学生課までお問い合わせください。
※各専攻の研究領域・研究内容については4ページ以降を参照ください。

2 出願資格

<一般選抜>

次の(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。

<社会人特別選抜>

企業または団体等に在籍する者で、次の(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。

<外国人留学生特別選抜>

在留資格が「留学」である者、または入学時に「留学」の在留資格を取得できる見込みの者で、次の(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者および令和5年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および令和5年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および令和5年3月31日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、および令和5年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および令和5年3月31日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、文部科学大臣の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（大学を卒業した後、または外国において学校教育における16年の課程を修了した後、もしくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、さらに大学・研究所等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者）
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により修士の学位または専門職学位を有する者と同様以上の学力があると認められた者で、令和5年3月31日までに24歳に達する者

※出願資格の(7)、(8)により出願する者は事前の出願資格審査が必要です。

3 選抜方法

入学者の選抜は、面接試験および出願書類の内容を総合的に判定して行います。

4 試験科目等

試験科目	出題範囲等
面接	主として修士論文等のプレゼンテーションと関連する試問。

5 出願期間および選抜期日

出願期間	選抜期日
令和5年1月16日(月)～1月20日(金)	令和5年1月29日(日)

6 合格発表期日および入学手続期間

合格発表期日	入学手続期間
令和5年2月9日(木)	令和5年2月13日(月)～2月17日(金)

7 試験会場

石川県立大学

〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地

TEL 076-227-7408

8 出願等の留意事項

- (1) 出願することができるのは、1つの専攻・研究領域に限ります。**出願にあたっては、あらかじめ志望する研究領域の担当教員と必ず連絡を取り、研究内容等について十分に相談してください。**
- (2) 出願資格(7)、(8)により出願を希望する者については、事前の出願資格審査が必要となります。必要となる書類を個別に連絡しますので、出願資格審査期間内に書類が提出できるよう、あらかじめ本学教務学生課まで問い合わせてください。
審査期間 令和4年12月6日(火)から12月13日(火)まで(土・日を除く)

9 研究領域

各担当教員の研究内容については、本学ホームページを参照ください。大学院・各専攻紹介のページからリンクがあります。 (<https://www.ishikawa-pu.ac.jp/>)

(1) 自然人間共生科学専攻

研究領域	研究内容		
生産科学	<p>生物多様性に基づく新規食料資源の開発や、既存資源生物の効率的な生産技術体系の確立を目指し、作物・家畜（広義には資源生物）と環境との相互作用を、先端技術を駆使し、細胞・個体レベルあるいは集団レベルで解明し、持続可能な農業生産の効率化と安定化に寄与しうる研究を積極的に推進します。また、自ら目標を設定し、問題を見つけ出し解決できる、自立した指導的役割を果たしうる高度技術研究指導者を養成することを目指した教育研究を行います。</p>		
	担当教員〈研究分野〉		
	<p>准教授 高木 宏樹 〈植物育種学〉 教授 関根 政実 〈植物分子生理学〉 准教授 弘中 満太郎 〈応用昆虫学〉 准教授 高原 浩之 〈植物病理学〉 准教授 塚口 直史 〈作物生産学〉 准教授 坂本 知昭 〈作物生理学〉</p>	<p>教授 村上 賢治 〈蔬菜園芸学〉 教授 福岡 信之 〈農場野菜園芸学〉 講師 今村 智弘 〈花卉園芸学〉 准教授 高居 恵愛 〈農場果樹園芸学〉 教授 平山 琢二 〈動物管理学〉 教授 橋谷田 豊 〈動物繁殖学〉</p>	<p>講師 浅野 桂吾 〈動物栄養学〉 准教授 大角 雅晴 〈生産システム学〉 教授 金 成埜 〈生物資源経営学〉 准教授 住本 雅洋 〈生物資源経済学〉</p>
研究領域	研究内容		
環境科学	<p>地域資源の保全・管理と循環利用、生態系の保全に配慮した持続的な食料生産のための農地の利用と管理、高齢化社会に対応した地域環境管理、バイオテクノロジー等の新技術を活用した環境保全技術の開発等を研究対象とします。また、自ら問題発見と解決の能力を身につけ、環境科学に関する独創的な研究分野を開拓し、地域環境の保全・管理において指導的役割を發揮できる高度技術研究指導者を養成することを目指した教育と研究を行います。</p>		
	担当教員〈研究分野〉		
	<p>教授 瀧本 裕士 〈環境利水学〉 准教授 皆巳 幸也 〈大気環境学〉 准教授 百瀬 年彦 〈農地環境学〉 准教授 勝見 尚也 〈土壌環境学〉 教授 大井 徹は 令和5年3月31日まで、 後任の担当教員は 令和5年4月着任予定 〈動物生態学〉 准教授 北村 俊平 〈植物生態学〉</p>	<p>准教授 田中 栄爾 〈微生物生態学〉 教授 一恩 英二 〈地域水工学〉 教授 森 丈久 〈地域施設学〉 准教授 藤原 洋一 〈地域水環境学〉 准教授 長野 峻介 〈水利システム学〉 教授 大丸 裕武 〈流域環境学〉</p>	<p>准教授 山下 良平 〈地域計画学〉 准教授 上野 裕介 〈緑地環境学〉 教授 河井 重幸 〈環境微生物学〉 講師 楠部 孝誠 〈環境システム工学〉 講師 馬場 保徳 〈環境微生物学〉</p>

(2) 生物機能開発科学専攻

研究領域	研究内容		
食品科学	<p>食品の諸機能の作用機構の解明と新規作用の探索、新規食品素材の開発と、日常の食生活においてこれら機能が有効に発現するための諸要因を解明、食品の製造工程における危害要因の解析とその制御技術の開発、国民の健全な食生活確立のための教育研究を行います。さらに、食品の加工の既存技術の論理的解析、新しい技術・理論の発見、新原理に基づく新規食品の開発や、バイオテクノロジーを用いた未利用・低利用資源の有効利用に関する研究、安全で高品質な食品の製造に関する教育研究を行い、これらの分野で指導的役割を發揮できる高度技術研究指導者の養成を目指します。</p>		
	担当教員〈研究分野〉		
	<p>准教授 東村 泰希 〈食品生化学〉 教授 小椋 賢治 〈生体分子機能学〉 教授 小林 茂典 〈食品ビジネス学〉 教授 長野 隆男 〈食品製造開発学〉 講師 藤田 萩乃 〈食品加工学〉</p>	<p>准教授 小柳 喬 〈食品微生物学〉 准教授 島 元啓 〈食品製造工学〉 教授 榎本 俊樹は 令和5年3月31日まで、 後任の担当教員は 令和5年4月着任予定 〈食品化学〉 准教授 吉城 由美子 〈食品栄養学〉 教授 松本 健司 〈食品機能科学〉 准教授 本多 裕司 〈食品素材科学〉</p>	<p>准教授 関口 光広 〈食品分析学〉 准教授 中口 義次 〈食品管理学〉 准教授 西本 壮吾 〈食品衛生学〉</p>
研究領域	研究内容		
生物機能	<p>植物の全能性の基本原理追求と、植物の持つ有用物質の生産能を探索し、食品、医薬品の原料供給、製造等の産業での展開に向けた植物のゲノム、遺伝子の普遍性・多様性の探索、バイオ先端技術を駆使した生命現象の分子・細胞・個体レベルでの解明と、微生物の環境応答システムの分子機構の基本原理を解明し、食品、環境に関わる産業での展開に向けた微生物の有用な機能性を探索、特に代謝機構の分子・細胞レベルでの解明を目指す教育研究を行います。その中で、地域産業の指導的役割を果たす人材の養成を行います。</p>		
	担当教員〈研究分野〉		
	<p>教授 三沢 典彦は 令和5年3月31日まで、 後任の担当教員は 令和5年4月着任予定 〈植物遺伝子工学〉 准教授 森 正之 〈植物遺伝子工学〉 准教授 竹村 美保 〈植物遺伝子工学〉 助教 中谷内 修 〈植物遺伝子工学〉</p>	<p>教授 小林 高範 〈植物細胞工学〉 准教授 大谷 基泰 〈植物細胞工学〉 准教授 濱田 達朗 〈植物生理学〉 准教授 南 博道 〈応用微生物学〉</p>	<p>講師 中川 明 〈応用微生物学〉 講師 松崎 千秋 〈応用微生物学〉</p>

10 学生募集要項の配付

出願手続の詳細は、大学院学生募集要項で必ず確認してください。

請求方法は、本学での交付か郵送での請求となります。郵送を希望する場合は、要項名（前期課程・後期課程の別）を明記し、返送用として210円分の切手と角形2号封筒（A4サイズ入、返送先を記載）を同封した郵便を、下記問い合わせ先まで送付ください。

＝問い合わせ先＝ 石川県立大学教務学生課 E-mail kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp
〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
TEL 076-227-7408 FAX 076-227-7410